

# 1 むらづくりの主体

(1) 名称 とうさんどういおうの 東山道伊王野 ぶっさん ふるさと物産 くみあい センター組合

(2) 所在地 とちぎけんなすぐんなすまちいおうの 栃木県那須郡那須町伊王野

(3) 地区の規模 旧市町村単位の集団等

(4) 組織の性格 地縁的な集団等

(5) 代表者の氏名、役職及び住所

氏名 うすい ひでお 薄井 英雄

役職 組合長

住所 とちぎけんなすぐんなすまちいおうの 栃木県那須郡那須町伊王野 1 4 3 0



白地図KenMapの地図画像を編集

# 2 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林	
3,705人	573人	924戸	6,988ha	627ha	4ha	5,168ha	
農家戸数	販売農家数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業の農家
469戸	400戸	32戸 (8.0%)	55戸 (13.8%)	313戸 (78.2%)	62戸 (15.5%)	178戸 (44.5%)	160戸 (40.0%)
地域指定状況				農業地域類型区分			
振興山村地域(昭和42年) 農業振興地域(昭和47年) 特定農山村地域(平成5年)				市 町 村		当 該 地 区	
				中間農業地域		中間農業地域	

### 3 むらづくりの背景・動機

那須といえば、高原に牧場が広がる一大観光地として有名であるが、それは東北自動車道や新幹線から北側だけの話で、南側に位置する伊王野地区は観光とは無縁な過疎に悩む中山間地域である。伊王野地区には豊富な森林資源がありながら、販売する場所がないために収入に結びついていなかった。

このようななか、今、何かをしなければますます取り残されてしまうという危機感から、地域が一体となって団結した。地域の活性化のために活動している伊王野里づくり委員会が中心となって、県内外から那須を訪れる多くの観光客等に、伊王野にも足を伸ばしてもらうため、道の駅を国道294号線沿いの伊王野地区に誘致して、中山間地域の資源を活かした、都市住民との交流の拠点とする案が持ちあがり、平成8年の道の駅の整備をきっかけに、伝統芸能保存館、物産センター及び食堂施設等が整備された。

その運営については、伊王野里づくり委員会で検討が行われ、地域住民が1人でも多く参加できるよう、伊王野地区住民の出資による組合を設立することが決められた。1口1万円で組合員を募集すると、地域内の農林業、商工業、消費者等を含む180名からの申し込みがあり、平成11年11月に東山道伊王野ふるさと物産センター組合が設立され、地域や関係機関の協力により、平成12年10月に道の駅がオープンし、活動を開始した。

道の駅「東山道伊王野」の営業部門は、374名の地域住民からの出資により運営され（出資者の約8割は農家）、多くの住民がオーナーとなっていることから、地域住民に団結心と協調性が芽生え、地域全体が一丸となって、組合活動に協力・支援するようになっている。

### 4 むらづくりの内容及び成果等

#### (1) そばの里の中心となる食堂部の取組

伊王野地区はかつて葉たばこの生産が盛んで、たばこ栽培の裏作にそばを栽培していた。当地区は気候風土がそばの栽培に適しており、おいしいそばが採れることから、同組合でそばの栽培を復活させ、「そばの里づくり」を推進し、地域振興を図ることにした。

いかに本格的な手打ちそばを提供できるかが大きなポイントであったが、そばの里伊王野愛好会から職人を雇い、農家から購入した玄そばを水車小屋の石臼で製粉し、そば打ち職人の手打ちによるそばを提供している。



水車館の様子

## 【 成果等 】

組合でそばコンバインを購入し、町の振興作物であるそばの作付面積拡大を図ってきた。個人では困難な刈り取り作業の省力化を図るため、刈り取り作業の受託（刈り取り作業料金 6,000 円/10 a、那須町標準小作料では 9,000 円/10 a）を行っている。

- ・ 那須町のそば作付面積：1 ha未満(平成12年) 10 ha(平成16年)
- ・ 伊王野のそば作付面積：615 a(平成13年度) 872 a(平成16年度)

伊王野在来の種を配布して、契約栽培も進めており(平成16年は4,727 kg、対前年比130%)、地元買上の玄そばは、全量自家製粉している。

そば打ち職人は、30歳代の若い後継者層も含めて50名程であるが、定年退職後にスムーズにそば打ちに従事できるよう、PRイベントに参加させたり、技術交流や研鑽ができるような後継者育成を考えたシステムをとっている。

平成16年の食堂部売上は、10,962万円。お食事処「水車館」は、平日は1日約300から400人、土日は1日約600から700人を集客。

また、そばソフトクリームは、売上が2,300万円を超えるヒット商品。

## (2)品質管理を重視した物産センターの運営

物産センターでは、地元で採れた新鮮で安全な野菜や山菜類を適正な価格で販売し、特に山菜などの特産物は、保護しながらの栽培方法も検討し、乱獲防止に努めている。(販売規約に規定、罰則規定も設置。)

また、農産物については、出荷会員数126名(うち7割が女性)を対象に、毎月講習会を開催し、平成13年6月には、組合役員等と4名の消費者をメンバー(委員23人のうち10人は女性)とする農産物販売検討委員会を設立し、2カ月に1度抜き打ちで、出荷された農産物を審査し、不適切な出荷者に対しては、イエローカード(3枚もらったら出荷停止)を出して注意・指導し、品質管理に努めている。



厳正な品質管理の様子

## 【 成果等 】

平成16年の物産センター売上は、18,550万円。

65歳以上の組合員が全体の3割以上を占めるが、野菜づくりと出荷に生きがいを見出し、病院への通院も減少傾向にあり、地域全体に活気が生まれている。

農家の若いお嫁さんたちも、自分名義の通帳を持ち、経営を後継者に任せる農家が増えており、若い後継者が意欲をもって取り組めるよう、組合では株を増資して出資させている。(平成16年の組合員への配当は5%)

### (3)地域コミュニティの活性化と都市農村交流の推進

ホテルエピナール那須との連携により、那須高原からのそば打ち体験者が増え、そば打ち体験を通して、都市住民との交流を図るとともに、地元の小学校2校と連携して、そば打ち体験を継続的に実施しており、食文化を伝える場や、地域の子供たちとの交流の場となっている。

また、江戸時代中期から伝えられている祭り屋台の保管やお雛子の伝承については、「まつり伝承館」の整備により祭り屋台の保管・展示を図るとともに、お雛子の伝承(30歳で後継者に引き継ぐ体制)にも取り組んでおり、後継者の育成が図られている。

地域還元としては、老人ホームでのそば打ち慰問、「歳末助け合いチャリティー新そば祭り」での募金活動や地域イベントへの活動助成等を行い、事業としての収益を確保しながら、それをできるだけ地域や地域住民に還元する地域ぐるみの取組に発展している。



地元小学生のそば打ち体験

## 【 成果等 】

現在では都市住民も参加する「秋の収穫大感謝祭」は、参加者8,000人を超える伊王野地区の一大イベント。

そば打ち体験実績：653人(平成16年) 売上約105万円。

道の駅を中心としたイベントの開催が地域行事として定着するなか、地区内のあらゆる団体が参加するようになるなど組織間交流の活性化も図られ、地域全体に活力が生まれている。



#### (4)農村景観の維持と環境美化活動の広がり

自然・環境整備としては、住民参加のもと組合員を中心に、そばの作付けのほか、彼岸花の植栽を毎年実施しており、伊王野地区内の彼岸花群生地「簗沢」と並ぶ群生地を目指し、道の駅を訪れる人が季節の花を見られるよう景観整備に努めている。

また、道の駅の隣りを流れる「三蔵川」では、ウグイ、鮭の遡上産卵の場の清掃や、稚魚の放流による川魚の保護、蛍の住める環境の保護に努めるなど、道の駅の施設周辺や伊王野城山等の環境整備にも力を入れている。



水性動植物等の捕獲調査保護

#### 【 成果等 】

これらの取組が地域に広がり、生態系保全水路や桜公園等の整備が進められ、かつての美しい農村環境の再生が図られてきている。

#### (5)生活、経済への波及

近くに働く場ができたことから経済的にも潤い、多くの人と接する機会も増え、女性は輝き、高齢者は働く場を得たことから、いきいきと元気に取り組んでいる。家庭においても、道の駅の活動を通して、共通の話題ができ、家族間の協力も増している。

また、伊王野地区の地元商店では、車社会のために売上が少なく、経営が困難となっていたが、物産センター等の活動に参加してからは、加工品の開発なども好影響を及ぼし、後継者に経営を引き継ぐ商店が増えている。農業だけではなく地元の商工業にも波及効果がみられており、道の駅を中心に活性化の輪が広がっている。

#### 【 成果等 】

同組合の地元雇用従業員は、48名となっており、当地域内では、那須町森林組合の55名に次いで雇用が多く、地域第2位の組織となっている。そのうちの25名は女性で、若い女性も多く、家庭と職場が近いため、安心して勤められると好評である。

# 【むらづくり推進体制】

